



Q 夏休みの宿題に「家の手伝い」があります。長続きし
そうになく、私も口を出してしまいそうです。

A 任せたら多少のことには目をつぶり、「ありがとう」「助
かったよ」と労いの言葉をかけましょう。

ご褒美をあげてみたら

子供のモチベーションが低い
場合、ご褒美が頑張るきっかけ
になることがあります。お手伝
いを無理強いすると、子供も面
白くありません。

お手伝いができたら、ご褒美
シールを貼るとか、欲しいもの
を買ってあげるとか、子供に交
渉させてもいいでしょう。そう
した外発的動機が、手伝ううち
に内発的動機に転換されれば問
題ありません。ご褒美がほしく
て始めても、面白くなり、家族
も喜んでくれるから、自発的に
手伝うようになる子もいます。

お手伝いの要領を教えたら、
あとは任せて、多少のことには
目をつぶりましょう。終わると、
誉めるより、「ありがとう」「助
かったよ」と、労いの言葉をか
けるほうがいいでしょう。

親は関心を持ってかわる

子供が長続きするよう、親が
関心をもつてかわることが大
切です。玄関掃除では、細かい
土ぼこりを舞い上げないように
水にぬらした新聞紙をちぎって
撒いてから掃くといった生活の
知恵を教えたり、時には靴磨き
をさせたり、マンネリ化しない
工夫もできます。

調理の手伝いには楽しいキッ
チングッズも出回っており、ス
マホアプリの「一分レシピ動画」
でイメージをつかめます。大人
が使っている道具に興味を持て
ば、お手伝いの「やらせ時」です。

お手伝いには、生活技術の習
得や達成感、段取り力、それに
家族に喜んでもらえるなど、い
い経験ができます。充足感があ
ると、ほかのことでもモチベー
ションが高まるかもしれません。
子供に手伝いを頼むと親の負担
が増える、という声もあります
が、勉強では得られない経験を
通して成長できることを楽しみ
に、かかわってあげてください。